

設 立 趣 意 書

日本コントラクトブリッジ連盟が昭和28年（1953年）11月に高松宮宣仁殿下を名誉総裁にお迎えし発足してから29年の歳月が経過した。発足当時は個人宅を事務所に100名足らずの東京在住プレイヤーが中心だった当連盟もブリッジ人口の増加と社会の要求に対応して、その活動範囲を大幅に拡大し、現在は東京、大阪に夫々独立の事務所をかまえ、会員、会友数約3,000名、その分布も神戸、京都、名古屋、札幌、広島、金沢、浜松、静岡、仙台、富山、福岡他、全国各地に拡大されるに至り国際的にも昭和54年11月には東京で選手、役員200名を越える参加者を得て第23回極東ブリッジ選手権試合を成功裡に開催できる程の組織に成長した。

コントラクトブリッジ（以下ブリッジという）は囲碁、将棋に勝るとも劣らない健全娯楽でありいわゆる頭脳スポーツという言葉が内容を如実に表しているものであるが、更に社交性という他のゲームに比類のない特色があり、この特色が世界ブリッジ人口一億と見込まれる国際的普及度と相まって国際文化交流親善に大きな力を発揮しており世界ブリッジ連合加盟国100ヶ国を基盤として4年に一度開催されるオリンピック、隔年に開催される世界選手権試合、毎年開催されるアジアでの極東選手権試合など数多くの国際試合の開催に具現されている。

海外駐在生活を送る日本人のうちブリッジプレイヤーがブリッジを通じて現地の人たちとの友好を深めている事実は、とかく日本人だけの閉鎖社会を作るとの批判を受けている日本人の不評を若干でも撤回させ得るもので、真の国際人として成長するための教養の一つとしてブリッジが評価されつつあるのは当然の成行きである。

このように国際親善の増進に役立つ大衆健全娯楽としての国際社会における地位に比し、我が国における評価の低さは当連盟の努力不足もさることながら、カードゲーム（トランプ遊び）すなわち子供の遊び、あるいは賭博としての認識しか持てない我が国社会の認識不足にも原因がある。

当連盟はブリッジに対し正当なる社会的認識を得るためにブリッジの普及と発展につとめ、あわせて技術と品位の向上を目指して普及活動事業、クラブ事業、競技会事業、マスターポイント事業、国際交流事業、出版事業などの組織的活動を実施してきているが、更に社団法人として公的認知を受けることによりブリッジ自体の評価認識を高めると共に、従来の同好会的集合体から脱皮して国内的にも国際的にも責任を負担し得る組織へ移行し、もって、健全大衆娯楽としてのブリッジの普及とブリッジを通じて国際親善を図るため、社団法人日本コントラクトブリッジ連盟の設立を意図するものである。

昭和57年2月11日（1982年）
日本コントラクトブリッジ連盟
会長 渡 辺 文 夫